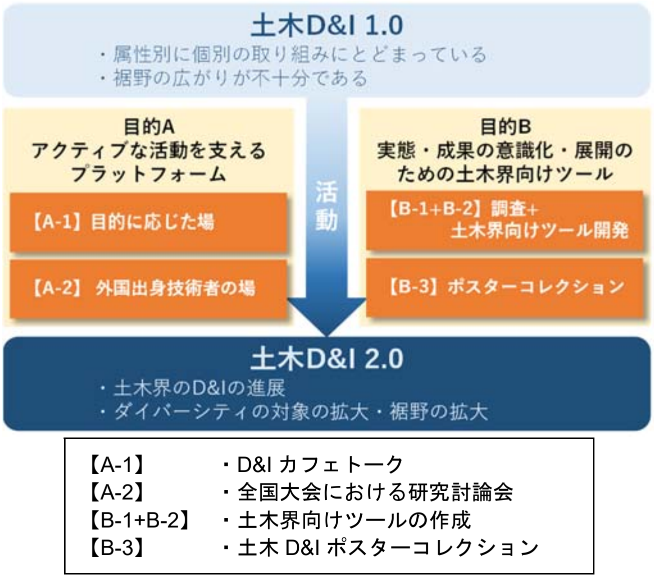
土木学会におけるダイバーシティ＆インクルージョンの推進

（株）建設技術研究所　　正会員　○米山賢

1. はじめに

本稿は土木学会「ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会」（以下，「D&I 委員会」という）の取り組みについて紹介するとともに，現時点でのレビューを行い，今後の活動の方向性について検討を加えたものである．

D&I 委員会では，土木学会が 2020 年度より推進する 5 か年計画「JSCE2020-2024（略称：JSCE2020）」を構成するプロジェクトのうちの一つ「土木 D&I 2.0 にむけた活動の場とツールをつくる」（以下，「土木 D&I 2.0」）を主体的に推進している．本活動は大きく 2 つの目的を有し，一つは取り組みの領域とネットワークの拡大を図ることをめざした「場」の構築，もう一つは土木界における D&I の現状や進捗状況を把握するための「ツール」の作成である（図－１）．



図－１　「土木 D&I 2.0」における目的と目標

2. 活動の概要と成果

(1) D&I カフェトーク【A-1】

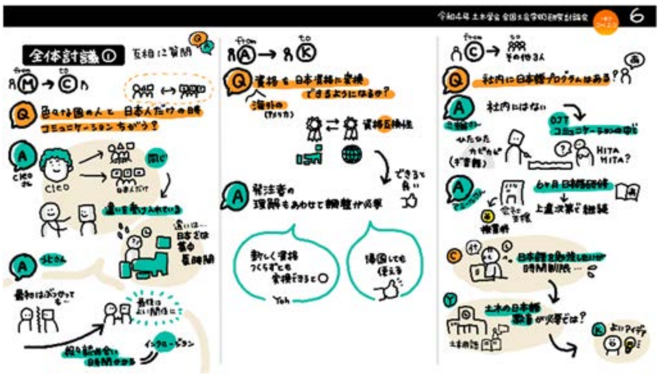
D&I カフェトークは,「D&I は決して難しくなく，一つの正解があるものでなく，人それぞれの D&I があってよいのではないか」という発想の下，さまざまなゲストに「その人の D&I」をアンカーが伺ってみるという企画である．

カフェトークは，女性，男性，外国出身者，土木以外の業界の方など多様なゲストによる多様な話題を扱い，開催回数は 2023 年 4 月までに 40 回を数え，全回アーカイブ映像を視聴できるようにしている（図－２）．

図－２　D&I カフェトークのコンセプト

(2) 全国大会における研究討論会【A-2】

2022 年度の全国大会において，前年度に引き続き，研究討論会「土木 D&I 2.0：考えよう，ルーツの多様性で土木界を元気に」を開催した．グラフィックレコーディングを用いて討論内容を可視化するなど，オンラインでも参加者がわかりやすいような工夫を行った（図－３）．



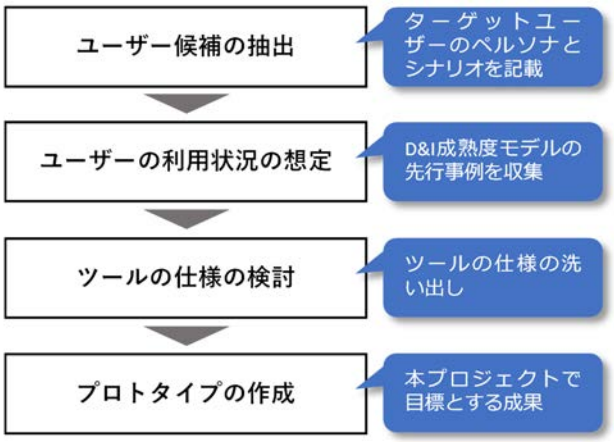
図－３　グラフィックレコーディングによるまとめの例

(3) 土木界向けツールの作成【B-1+B-2】

ユーザー自身が所属する組織の D&I の現状を把握し，必要な取り組みを検討するとともに，その効果を確認するためのいくつかのツールを作成する，という活動である．実用性を高めるため，土木界に実在しそうなユーザーやユースケースを可能な限り想定しながら作成している（図－４）．

Key Words：ダイバーシティ，インクルージョン，JSCE2020 プロジェクト，D&I プラットフォーム，D&I ツール
〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1　03-3668-4226　yoneyama@ctie.co.jp

© Japan Society of Civil Engineers



図－４　土木界向けツールの作成手順

(4) 土木 D&I ポスターコレクション【B-3】

土木界におけるダイバーシティの推進を発信していくため，2018 年，2019 年に実施した D&I ポスター展の継続・発展版として進めている活動である．

具体的には，各職場等の D&I に関する取り組みを表現したものを公募し，応募のあったポスターを掲示するというものである．形式はコロナ禍も踏まえてウェブ掲載とし，「いつでも」「どこからでも」アクセス可能な常設展としている（図－５）．

図－５　土木 D&I ポスターコレクション画面

3. 現時点での活動のレビューと今後の方向性

(1) 【目的 A】「場」の構築

D&I カフェトークは，固定的な参加者がいるなどその存在は浸透しつつあり，「場」の構築という目的に沿った活動になっていると思われる．これには決まった日時「金曜日の 17 時」に，気軽に参加できる長さ「30 分」で開催してきたことに加え，毎回どのようなゲストや話題であっても必ず D&I に関する気づきや示唆が得られるような内容面での工夫も寄与していると考えられる．

一方，研究討論会は，単に外国出身技術者や D&I 推進担当者に参加していただくだけでなく，当事者意識がなかった人から注目されるなど，開催案内や運営上の工夫が「場」の構築につながっていると考えられる．

いずれの取り組みも委員会のリソースを要していることから，今後も「場」を維持・発展させていくためには，「場」に集まる人自身が，「場」の構築に関与していくような展開が望まれる．

(2) 【目的 B】「ツール」の作成

土木界向けツールの作成では，具体的なユーザーのさまざまなユースケースを想定して検討し，一つの成果として，ユーザーが D&I について知るための書籍やウェブサイトを整理した「読書リスト」のプロトタイプを作成した．読書リストは，D&I を深く理解したい，今すぐ D&I 推進に使いたいなど，多くのニーズに応えるようにしている．

ポスターコレクションは，アクセスが容易なオンライン展示としていることがツールとしての価値を高めているが，情報の陳腐化やツールとしてのマンネリ化などが懸念される．

作成した読書リストやポスターコレクションだけでなく，作成検討中の他のツールについても，多様なニーズに応えるのは容易ではない．また，ユーザー自身や組織の D&I が進むと，新たなニーズが生じると思われる．そのため，プロトタイプ段階で公開してできるだけ多くの人に利用していただき，フィードバックに基づくアップデートを重ねることによって土木界の D&I 推進に役立つツールとしていくことが望まれる．

4. おわりに

本プロジェクトがめざす「土木 D&I 2.0」の実現はまだ道半ばであるが，D&I についての理解が進み，土木界の D&I 推進に携わる人が増えるためにも，D&I 委員会の活動を継続的に発信していくことが必要不可欠と考える．

＜参考文献＞

1）土木学会 5 か年計画
http://committees.jsce.or.jp/JSCE20XX/
2）土木学会 D&I 委員会ウェブサイト
https://committees.jsce.or.jp/diversity/

© Japan Society of Civil Engineers